

平成 29 年度長崎大学がんプロ養成基盤推進プラン在宅・地域医療実習

実習生：佐藤 綾子

実習先：谷川放射線科胃腸科医院

実習期間：2017 年 10 月 18 日～ 2018 年 2 月 14 日

若葉町にある谷川放射線科胃腸科医院での実習を終了しました。実習期間が平成 29 年 10 月 18 日から平成 30 年 2 月 14 日までと長くなったのは、実習が水曜日の午後のみであったためです。また保育園に通う 2 歳児の母であるため、実習時間も制限があり、なかなか時間外の対応が難しい中、実習のたびに快く受け入れてくださり、充実した実習をさせていただくことができました。大変感謝をしております。

谷川放射線科胃腸科医院では主に訪問診療をしておられる先生が 2 人おられます。その他にも大学からの非常勤の先生もおられるようです。黄色のかわいいコンパクトカーで長崎市の北部を中心に時津や長与まで（時には西海市まで）訪問診療に行かれています。私は長崎市で生まれ育ちましたが、いわゆる町っ子なので今回の訪問診療で長崎市の坂道や階段に驚きましたし、車では通れない場所に住んでいる方も多いのだと実感しました。また初めて訪問するご家庭では、家が分からず、みかん畑の中を彷徨ったり、車を止めて寒空の中、通りを 1 本 1 本確認して歩いたこともありました。

訪問診療は午前の診療次第お昼休憩となり、午後は訪問診療、または大学病院や原爆病院のカンファレンスがある日はカンファレンスにどちらかの先生が参加されております。患者さんの急な発熱などの対応もされており、予定の訪問診療の合間に訪問ルート工夫をしながら回っておられました。特に 12 月になるにつれ、急な発熱などへの対応が増えたように思います。午後の訪問診療が終わり次第、カルテ記載や翌日の準備などをされております。1 日に 15～30 件ほどの訪問診療をされるとのことです。日中のみならず、夜間の待機も二人の先生方が交代でしておられるようです。電話対応のみのこともあれば、夜間に訪問診療をすることもあるとのことでした。その際にはまず谷川放射線科胃腸科医院に出向き、車を谷川医院の車に乗り換えて患者さんのご自宅に向かうとのことでした。

患者さんの疾患は高血圧、糖尿病、脳梗塞後の患者さん、パーキンソン病の患者さん、担がん状態であっても、術後でこれから治療が始まるという患者さんから終末期の状態である患者さんと様々でした。また独居であったり、グループホームにおられたり、ご家族とともに過ごしておられるなど、背景も様々でした。

私はこれまで勤務医として病院でがん患者さんを診察してきました。病院で患者さんのお看取りもしてきましたし、調整して在宅移行してきた患者さんもおられました。今回の実習期間で関わらせていただいた患者さんの中に、通院で化学療法を受けられておられる方

がおられました。実習期間の中で病状が進行してしまい、治療を終了し今後は緩和ケアを中心とした医療に移行するとのことでした。実習開始時にはとても表情が険しく、辛そうな様子が印象的でしたが、息子さんが介護休暇を取得し、寄り添っておられるようになった時期から明るく、柔和になったのもまた印象的でした。病状が厳しくなり、いよいよ治療終了となった時も、穏やかに受け入れられた様子でした。住み慣れた家で、ご家族と過ごすことで、患者さんにとって安心感が得られたのだと思います。私はこれまで在宅調整まではしたものの、患者さんとの関わりも在宅医の先生に移行してしまい、その後の様子をなかなか見ることができないことが多かったのですが、今回の訪問診療では病院の診察以上に患者さんご本人やご家族のお話しをさせていただき、様子をじっくり見ることができました。実習が終了した今、この患者さんがご家族と良い時間を過ごしていることを心から願っています。他にもご高齢の患者さんを支えるご家族も病気を発症され、グループホームとご自宅を往来しながら日常生活を送っておられる患者さんなどもありましたし、変性疾患で体を動かすことも自由できない中、内服のタイミングを調整し、歩くための目印を床に貼り、なんとか自活されている患者さんもおられました。



今回の在宅実習では訪問診療に同行させていただき、在宅医の先生方のお仕事を体験させていただいたことはもちろんですが、患者さんひとりひとりに思いを馳せ、少しの時間でも寄り添うことに意義があったことと思っています。今回の在宅実習の10日間で訪問した患者さんは88名でした。谷川放射線科胃腸科医院の谷川健先生、本田英雄先生、津田一英先生、立石先生、またスタッフの光田信明様、お世話になり、大変ありがとうございました。



報告会にて